

## がん相談支援センターがつなぐお手伝いをします

がん相談支援センター 太田 英恵

がんと診断されて療養を続けていく中で、ご心配なことはありませんか?

がん相談支援センターは、がん患者さまやご家族が安心して過ごすことが出来るよう、様々なご相談をお受けしています。看護師やソーシャルワーカーがお話をうかがい、必要に応じて他の専門職(医師や薬剤師等)と協力しながら対応しています。

### 【がん相談】

「治療の費用が高額にならないか心配」「自宅療養する時に利用できるサービスを知りたい」「治療しながら仕事を続けていいけるだろうか」など、様々な心配ごとのご相談をお受けします。

### 【がん看護外来(予約制)】

「病気や治療のことで気がかりなことがある」「気持ちの整理ができない」「療養生活の工夫や対応が知りたい」など不安や心配ごとにについて、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師がお話をうかがいます。医療保険の適応になり、ご負担をいただく場合もあります。

### 【がん患者サロン～いきいきかぐらざか～の企画運営】

がん患者さまやご家族が、体験を分かち合い自分らしく過ごすことを目指して、交流の場を設けています。2018年度は、がんを遠ざける健康的な生活自分でデザインするための「生活習慣プログラム」を開催しました。今後



の開催については、院内掲示ポスターや病院ホームページでご確認ください。

### 【緩和ケア病棟のご相談・予約・見学】

緩和ケア病棟に関するご相談をお受けします。また、当院緩和ケア病棟のご入院をご希望される方の外来の予約相談やご見学にも対応しています。

がん患者さま同士を、ご家族を、医療関係者を、地域の関係者を、サービスを、つなぐお手伝いをしたいと考えています。ぜひご相談ください。

がん相談支援センターは、本館1階 患者サポートセンター内(旧 地域連携・総合相談センター)にあります。

連絡先:03-3269-8137(がん相談直通)  
平日9:00~16:00 面談は予約制です。

独立行政法人 地域医療機能推進機構  
**東京新宿メディカルセンター**

発行:JCHO東京新宿メディカルセンター がん診療委員会  
〒162-8543 東京都新宿区津久戸町5-1  
電話 03-3269-8111 (代表) URL : <http://shinjuku.jcho.go.jp>



独立行政法人 地域医療機能推進機構  
**東京新宿メディカルセンター**

がん診療情報誌

# いきいきかぐらざか

れんげ草には「心が和らぐ、苦しみを和らげる」という花言葉があります。

「みなさんが自分らしく過ごせるように」という意味をこめて情報誌を作成しております。

JCHO東京新宿メディカルセンター がん診療委員会



### 前立腺がんのトータルケア

急増すると予測されていた前立腺がんですが、その増加スピードは想像以上であり、2015年には胃がんをぬいて日本の男性がんの罹患数第一位となってしまいました。今後さらにはすむであろう人口の高齢化を考えると、高齢者に多い前立腺がんへの対策は急務といえます。当院では、2016年に高精度放射線治療機器トモセラピーが、2018年12月にロボット手術機器ダビンチが導入され、2019年4月から3テスラMRI(磁気共鳴画像)診断装置が稼働します。関連する診療部門の力を結集し、高度な前立腺がん診療が可能となりました。

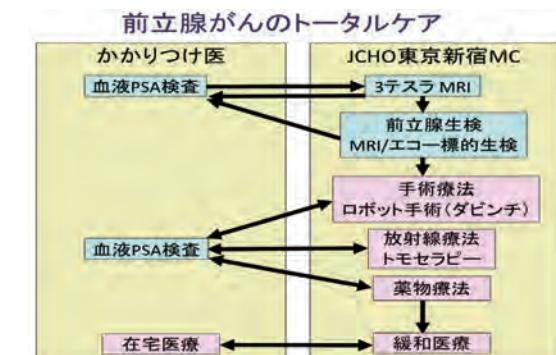
前立腺がんの診断においては、MRIの進歩が目覚ましく、MRIとエコーをドッキングさせた前立腺生検も行われるようになってきました。当院でもMRIのがん疑い部位を狙う標的生検を施行しています。3テスラMRIはこれまでより詳しく病巣を描出できるため、さらに診断の精度が向上します。手術療法に関して、当院でもダビンチが導入されてロボット手術(ロボット支援前立腺全摘除術)がはじめました。骨盤の奥深くにある前立腺に対して、繊細な操作で従来よりも安全かつ確実性の高い手術を行なうことができます。当院泌尿器科木藤部長は前任病院でダビンチ手術に習熟していたため、当院での初期手術もスムーズに行うことができました。また、高精度放射線治療トモセラピーは、前立腺がんの病巣に集中して放射線を照射し、周辺の正常組織への影響を最小限に抑えることが可能です。当院に導入されたこれらの高精度治療により、患者さまの負担を少なく

してがんの根治を目指すことができるようになりました。一方、進行がんや再発がんに対する薬物療法に関しても、新規治療薬の開発は進んでおり、これまで適切な治療がなかった高リスクの転移性がんの初期治療や、再発・再燃がん(去勢抵抗性がん)の治療にも希望がもてるようになりました。

血液PSA(前立腺特異抗原)検査を通じてかかりつけ医と連携をはかることによって、スクリーニングから、診断、根治治療、再発がんの治療、そして緩和医療や在宅での看取りまで、当院での前立腺がん診療のトータルケアが達成できるようになりました。ぜひご利用ください。

### JCHO東京新宿メディカルセンター 前立腺がん診療の強み

- ◆3テスラ MRI(2019/4導入)
- ◆ロボット手術機器ダビンチ(2018/12導入)
- ◆高精度放射線治療装置トモセラピー(2016/4導入)
- ◆専門性の高い薬物療法
- ◆地域かかりつけ医との連携



副院長 泌尿器科部長  
赤倉 功一郎

## がん教育を知っていますか



呼吸器内科医長  
清水 秀文

「がん教育」という言葉を耳にしたことはあるでしょうか。

がんは国民の2人に1人がかかると言われているように、誰もが無関係ではいられない疾患となっています。一方でがんやがん

患者さまに対して一般の方が抱くイメージは実際とは異なっていることが多く、その知識も十分なものとはいえない。2016年12月に改訂されたがん対策基本法ではがん教育について「国および地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるように、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」と定めています。自分自身あるいは身近な方、著名人ががんになったことを契機にがんについての知識を得ていくことが多かったと思うのですが、これからは義務教育の過程、そして高等学校において、子供たちにがんの知識を伝えていくことで、国民全体のがんに対する知識、理解を向上させていこうというのががん教育の理念となります。

2021年度から実施される中学校の新学習指導要領にはがんについて取り扱うことが明記されており、小学校や高等学校でも全面的な開始が見込まれていることから、すでに多くの学校ががん教育を開始しています。文部科学省の調査では2017年度にがん教育を実施した学校は56.8%でした。学校の養護教諭が行っている場合が多いものの、約1割の学校では外部講師としてがん経験者やがん専門医を



招いてがん教育を行っており、この割合は今後増えてくることが予想されます。

私も2018年11月に西新宿中学校でがん教育の授業をおこなってきました。対象は同校の2年生です。事前にアンケートを行い、がんに対する印象など聞いていたのですが、大人が思っている以上に子供たちががんやがん患者さまに対しての考え方を持っていることに気づかれます。授業ではまず30分ほどスライドを用いてがんの簡単な知識と、がんを予防するための生活習慣、そして早期発見のためのがん検診の有用性を説明し、その後に20分ほど質疑応答の時間を設けました。質疑応答では生徒たちから様々な質問があり、時間内に収まらなかった質問がアンケートの中にも書かれていました。関心が高く、興味を持って授業を受けてもらえたのではないかと思います。生活習慣やがん検診について得た知識を、周りの人たちにも伝えていきたいという心強い意見もありました。また授業を受けた後で、がんやがん患者さまに対する印象が変わったという感想も多く、がん教育を行っていく意義を感じられました。今後も活動の場を広げながら、がん教育を継続していきたいと考えています。

## 化学療法を受ける方へのアピアランスケアについて



形成外科部長  
富田 祥一

がん治療により、外見に様々な変化が起こります。中には外見が変化することで、他人との関わりや外出を避けるようになり、今まで通りの生活が送りづらくなることがあります。このような外見の変化は「命と引き替えにやむを得ないこと」ではなく、「自分らしい日常生活のために、適切に対処すること」が必要です。今回はがん治療による外見変化に対するケア(アピアランスケア)についてご紹介します。

多くのがん治療の中で化学療法(抗がん剤治療)は手術・放射線療法と並び、柱となる治療法の一つです。しかし、化学療法は少なからず副作用を伴います。乳がんに対して化学療法を行った日本人女性を対象としたアンケート調査では、全身倦怠感、吐き気、味覚障害、手足のしびれなど様々な副作用の中で90%以上の方が、脱毛が最も苦痛だったと回答しています。そしてこの脱毛は使用する抗がん剤の種類にもあります。例えば乳がんの化学療法では98%と非常に高頻度に出現します。頭髪の脱毛に対して多くの方がご存じかと思いますが、一般的にウイッグが用いられます。一方で、まつ毛や眉毛に対する対策はあまり知られていません。今回はそこにスポットライトを当てたいと思います。

実は乳がんの化学療法によって、約5人に3人の方がまつ毛や眉毛の80%以上の脱毛を経験します。このうち化学療法から5年経過しても、約6人に1人は半分も回復せず、さらに約20人に1人は30%以下の回復に止まります。想像以上に多い印象を受けます。

まつ毛に対するもっとも簡便な対処は「つけまつげ」です。近年では通常のメイクアップにも取り入れている方も多く、街中のドラッグストアや化粧品売り場でも購入できます。こ

れらは化学療法中であっても、皮膚のかぶれさえなければ使用することができます。一方で「まつ毛エクステンション(まつエク)」はまつ毛の脱毛を促進したり、再発毛へ悪影響を及ぼす可能性があり、オススメできません。この他にまつ毛の発毛を促進する薬として「グラッシュビスタ®」があります。これは元来、縫内障治療に用いられていた成分にまつ毛成長作用があることを応用した新しい治療薬です。厚生労働省から認可された医薬品です。保険適応外ですが医療機関を通じてお使い頂けます。

眉毛に対する対応は一般的にはメイクアップです。しかし普段のメイクアップと異なり、毛のないところにイチからデザインするには技術と慣れが必要です。また汗で落ちてしまうこともあり、不自由に感じる方も少なくありません。そこで近年注目されているのが眉毛へのアートメイクです。アートメイクは特殊な針を用いて色素を皮膚へ入れます。眉毛の毛流れを表現したり、お化粧をしたときのふんわりとした色合いを表現したりすることができます。医療行為であるため、医療機関でないと施術を受けることができません。

形成外科では日々、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、機能的のみならず形態的に正常に、より美しくすることによってQOL(生活の質)の向上に貢献できるよう取り組んでおります。お気軽にご相談いただければ、様々な情報提供ができるように常時情報を集めております。